

8

Rd.

NOV 2015

平成27年11月30日発行

RACING PRESS

apan

SUPER GT ROUND 8
MOTEGI



Super GT
Series 2015

GT

Round 8
MOTEGI

11/14-15

スーパーGTは今シーズンの最終戦を迎えツインリングもてぎで開催された。最終戦とあってブルーインパルスがツインリングもてぎ上空に飛来、しかし天候不順で中止となったがコース上ではGT500のチャンピオンを競う熱い争いが展開された。

Nakamura



Text

島村元子

Editor

吉川絹恵

Photo

鉄谷康博

中村佳史

北川正明

小澤克仁

Cover Photo

北川正明

No.1 MOTUL AUTECH GT-R

2015.
Champion

No.10 GAINER TANAX GT-R



GT500

GT300



tetsu

tetsu

Nakamura

Nakamura

Nakamura

KeePer TOM'S RC F、今季2度目のポール・トゥ・ウィン!

ついに今シーズン最後の戦いを迎えたSUPER GT。最終決戦の舞台となった栃木・ツインリンクもてぎでは、各チームにとって明暗分かれるさまざまなドラマが生まれることになった。その中で出入りの激しいレースを展開しながらも、No.37 KeePer TOM'S RC F(アンドレア・カルダレリ/平川亮組)がポール・トゥ・ウィンを達成。また、シリーズチャンピオンは、No.1 MOTUL AUTECH GT-R(松田次生/ロニー・クインタレリ組)が逆転で獲得することとなった。

シーズン中、戦いをリードしてきたNo.12 カルソニックIMPUL GT-R(安田裕信/ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ組)は予選5番手からのスタート。彼らが最も恐れる1号車は12番手と出遅れた。予選中降り続いた雨が止んだ決勝日は決勝を前にゆっくりとドライコンディションへと向い、これがレース展開に大きな影響を与えることとなる。ポールスタートの37号車に続いてレースを牽引していたのは、GT500で唯一のダンロップタイヤを装着するNo.64 Epson NSX CONCEPT-GT(中嶋大祐/ベルトラン・バゲット組)。だが雨量が減って路面が乾きはじめるとペースがダウン、後方での渋滞が起る。スタート時は全車レインタイヤを装着していたため、早めにピットインしてドライタイヤへスイッチする戦略で転機を図ろうとするチームも現れた。その中で破竹の勢いを見せたのが1号車。

後方から着実にタイムアップ、後半戦に突入する前には実質2番手の順位を確保するという盤石の走りだった。

レースは後半戦に入り、セーフティカーランを伴うアクシデントが発生する。GT500とGT300の車両が接触、破損したパーツの回収を兼ねてレースがコントロールされてしまう。これを機に、瞬間に各車両におけるタイム差が消滅。レース再開時にはあちこちで激しいポジション争いが繰り広げられ、まさに最終戦にふさわしいガチンコバトルがどこかここで披露されることになった。

終盤に入り、トップを快走していた37号車に対し、逆転チャンピオンを目指す1号車が果敢に猛追。幾度となく激しい攻防戦を見せ、ポジションも都度入れ替わった。だが、最後は今季2勝目を狙う37号車の強い気持ちがライバルを阻止。開幕戦以来となるトップチェッカーを受けている。そして2位に入った1号車はシリーズチャンピオンでの逆転に成功。松田とクインタレリのコンビで2年連続覇冠を実現している。一方、GT王者獲得を懇願していた12号車は4位チェッカーとなり、ランキング2位で戦いを終えた。



GT500



TOYOTA PRIUS apr GTが圧勝!



2nd

Kitagawa



Kitagawa



tetsu



Ozawa



GT500決勝結果

| | | |
|-----------------------------------|-------------------|-----|
| 1位 No.37 KeePer TOM'S RC F | アンドレア・カルダレッリ/平川 亮 | 53周 |
| 2位 No.1 MOTUL AUTECH GT-R | 松田次生/ロニー・クインタレッリ | 53周 |
| 3位 No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT | 山本尚貴/伊沢拓也 | 53周 |
| 4位 No.12 カルソニック IMPUL GT-R | 安田裕信/J.P.デ・オリベイラ | 53周 |
| 5位 No.38 ZENT CERUMO RC F | 立川祐路/石浦宏明 | 53周 |
| 6位 No.39 DENSO KOBELCO SARD RC F | 平手見平/ヘイキ・コバライネ | 53周 |
| 7位 No.15 ドラゴ モデューロ NSX CONCEPT-GT | 小暮卓史/O・ターベ | 53周 |
| 8位 No.17 KEIHIN NSX CONCEPT-GT | 塚越広大/武藤英紀 | 53周 |
| 9位 No.6 ENEOS SUSTINA RC F | 大嶋和也/国本雄資 | 53周 |
| 10位 No.19 WedsSport ADVAN RC F | 脇阪寿一/関口雄飛 | 52周 |
| 11位 No.8 ARTA NSX CONCEPT-GT | 松浦孝亮/野尻智紀 | 52周 |
| 12位 No.24 D'station ADVAN GT-R | 佐々木大樹/ミハエル・クルム | 52周 |
| 13位 No.64 Epson NSX CONCEPT-GT | 中嶋大祐/ベルトラン・バゲット | 51周 |
| No.46 S Road MOLA GT-R | 本山 哲/柳田真孝 | 25周 |
| No.36 PETRONAS TOM'S RC F | 伊藤大輔/ジェームス・ロシター | 10周 |



3rd

tetsu



GT300



2nd

Ozawa



3rd

tetsu

すでに先の第7戦オートポリスでNo.10 GAINER TANAX GT-Rのアンドレ・クートがドライバーチャンピオンを手にしているGT300クラス。だが予選日で圧巻の速さを見せつけたのは、No.31 TOYOTA PRIUS apr GT(嵯峨宏紀/中山雄一組)。朝のセッションから終始トップタイムをマーク、ライバル勢も負けじとタイムアップするが、全く歯が立たず。31号車がライバルを余裕で退け、予選トップを奪った。

決勝に入っても31号車の快走ぶりは変わらず。予選2、3番手が攻防戦を繰り広げている間にどんどんトップとの差が開き、完全なひとり旅へ。安泰そのものに見えた戦いに暗雲が立ち込めたのは、SCランのとき。ライバル勢がほぼルーティンのピット作業を済ませていたが、31号車はさ

あらず。タイミングが大きすぎずれ込むこととなり、ようやく作業を済ませてコース復帰を果たすと、ポジションは4番手まで後退するというまさかの現実を突きつけられた。だが、戦いは終わらない。怒濤の追い上げに入った31号車は、次々とライバルを逆転。まさにクラス違いの速さであるという間にトップを奪還してしまった。結果、31号車が開幕戦以来となる今季2勝目を達成。2位に続いたNo. 0 グッドスマイル 初音ミク SLS(谷口信輝/片岡龍也組)は、今シーズン待望の初表彰台に上がることとなった。3位にはNo.11 GAINER TANAX SLS(平中克幸/ビヨン・ビルドハイム組)が続いている。



tetsu



Kitagawa



Kitagawa

GT300決勝結果

| | | | | |
|-------|--------|--------------------------|--------------------|-----|
| 1位 | No.31 | TOYOTA PRIUS apr GT | 嵯峨宏紀/中山雄一 | 50周 |
| 2位 | No.0 | グッドスマイル初音ミクSLS | 谷口信輝/片岡龍也 | 50周 |
| 3位 | No.11 | GAINER TANAX SLS | 平中克幸/ビヨン・ビルドハイム | 49周 |
| 4位 | No.55 | ARTA CR-Z GT | 高木真一/小林崇志 | 49周 |
| 5位 | No.65 | LEON SLS | 黒澤治樹/蒲生尚弥 | 49周 |
| 6位 | No.10 | GAINER TANAX GT-R | アンドレ・クート/千代勝正 | 49周 |
| 7位 | No.88 | マネバラランボルギーニGT3 | 織戸 学/平峰一貴 | 49周 |
| 8位 | No.21 | Audi R8 LMS Ultra | リチャード・ライアン/藤井誠輔 | 49周 |
| 9位 | No.7 | Stodie BMW Z4 | ヨルク・ミュラー/荒 聖治 | 49周 |
| 10位 | No.77 | ケーズフロンティア Direction 458 | 横溝直輝/峰尾恭輔 | 49周 |
| 11位 | No.61 | SUBARU BRZ R&D SPORT | 井口卓人/山内英輝 | 49周 |
| 12位 | No.25 | VivaC 86 MC | 土屋武士/谷川達也 | 49周 |
| 13位 | No.2 | シンティアム・アップル・ロータス | 高橋一穂/加藤寛規 | 49周 |
| 14位 | No.33 | Excellence Porsche | 坂本祐也/山下健太 | 49周 |
| 15位 | No.51 | JMS LMcorsa Z4 | 新田守男/脇阪薫一 | 48周 |
| 16位 | No.87 | クリスタルクロコ ランボルギーニ GT3 | 青木孝行/佐藤公哉 | 48周 |
| 17位 | No.60 | SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 | 飯田 章/吉本大樹 | 48周 |
| 18位 | No.30 | NetMove GT-R | 小泉洋史/岩崎祐貴 | 48周 |
| 19位 | No.111 | Rn-SPORTS GAINER SLS | 植田正幸/鶴田和弥 | 48周 |
| 20位 | No.47 | DIJON Racing GT-R | 井上恵一/柴田優作 | 47周 |
| 21位 | No.5 | マッハ車検 with いらこん 86c-west | 玉中哲二/密山祥吾 | 47周 |
| 22位 | No.50 | SKT EXE SLS | 加納政樹/ナニン・インドラ・ハユーン | 47周 |
| 23位 | No.360 | RUNUP Group&DOES GT-R | 吉田広樹/田中 篤 | 45周 |
| 24位 | No.22 | グリーンテック SLS AMG GT3 | 和田 久/城内政樹 | 43周 |
| 25位 | No.48 | DIJON Racing GT-R | 高森博士/田中勝輝 | 37周 |
| No.9 | | PACIFIC マクラーレン with μ's | 白坂卓也/阪口良平 | 22周 |
| No.3 | | B-MAX NDDP GT-R | 星野一樹/高星明誠 | 0周 |
| No.20 | | UPGARAGE BANDOH 86 | 中山友貴/井手有治 | 0周 |



POLE POSITION

No.37 KeePer TOM'S RC F

Text : Motoko Shimamura
Photo : Masaaki Kitagawa



雨を味方につけた新星の走り

SUPER GT最終戦を迎えたツインリンクもてぎ。朝からウェットコンディションが続き、気温や路面温度にマッチングしたクルマのセット、足下を支えるタイヤとのコンビネーションがタイムアタックの順位にも大きな影響を与えることになった。Q1よりも雨量が増えてきたQ2。気温こそ大きな変化はなかったが、不安定な足下を考え、確実な走り、そしてコンディションを恐れない強さが求められた。そんな難しい状況でトップタイムを刻んだのは、No.37 KeePer TOM'S RC Fの平川亮。今年がS-GTフル参戦1年目となる新星が見せた会心のアタックだった。

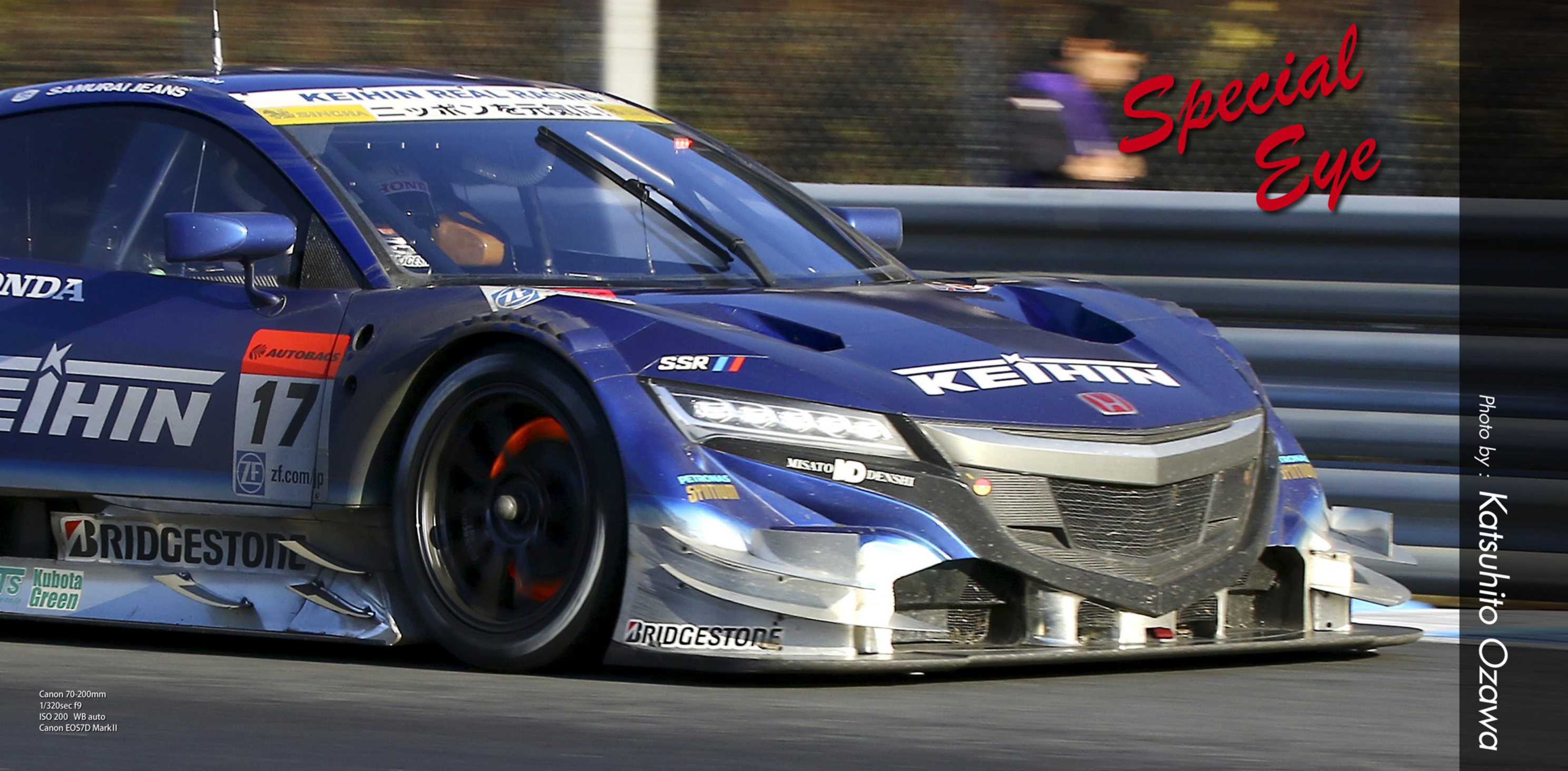


Canon EF500mm
1/20sec f2.9
ISO 200 WB auto
Canon EOS-1DX



*Special
Eye*

Photo by : Masaaki Kitagawa



*Special
Eye*

Photo by : Katsuhito Ozawa

Canon 70-200mm
1/320sec f9
ISO 200 WB auto
Canon EOS7D MarkII